

## RAKUGO THE FUTURE

## 文:田中啓文 第14回:落語とSF大会

みんなが待ちに待っていた恐怖の大王は降らず、不況の大王がざんざん降り降り続いておる昨今ですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、ご存じのかたはご存じでご存じないかたはご存じないと思うが、SF大会というものがある。

なんじゃそれは、という人のために一応ご説明しておく、SF大会というのは、SFの大会である。それではそのままではないか、という人のためにもう少し詳しくご説明しておく、日本中から大勢の「SFが集まってくる」イベントである。ちがう？ いやいやそんなことはない。共産党大会というのは、共産党が集合する催しだし、人民大会というのは、人民が集まる催しである。ということは、SF大会が、SFが集まる大会であることは疑う余地はない。SFファンが集まったりするものではないことは、名前が「SFファン大会」でないことから

明らかである。では、SFが集まっていったい何をするのか。それは「SFをする」のである。ちがう？ いやいやそんなことはない。凧揚げ大会というのは、みんなで凧揚げをする催しだし、餅つき大会というのは、みんなで餅つきをする催しである。ということは、SF大会が、SFをするための集まりであることはまちがいない。SFに関するいろんなことをするものではないことは、名前が「SFに関するいろんなことをする大会」でないことから明らかである。これで、SF大会のなんたるかを知らない素人のかたにも、うまく説明ができたと思う。

毎年一回、夏に行われるのだが、おとしは広島、去年は名古屋……というように、場所を変えて開催される点の特徴である。われらがガイナックス設立のきっかけの一つともなったようなことを小耳に挟んだ記憶があるような気もする、というぐらい

歴史的なイベントなのだが、どうしてこういう歯にもの挟まったような書き方をしているかということ、よく知らないからである。確かめればいいじゃないか、というかもしれないが、それはどうしてもできない。理由は面倒くさいからである。だいたい私はガイナックスについて多くを知らない。そもそも「ガイナックス」って何の意味なん？ ゲルショッカーに、ガラオックスという怪人がいたが何か関係があるのだろうか。「害なくす」という日本語をカタカナにただけという話もあり、地球上から公害をなくす運動か何かをしているのかと思ったらそうでもなさそうだし、逆から読むと「少ないが……」となり、原稿料や報酬が少ないのではないかとおびえる作家もいるかもしれないが、そんなことはないし、支払いもきちんとしている。何が少ないのだろう。「少ないがこれを取っておきたまえ」と言って、お小遣

いでもくれるのだろうか。そんな目にはあったことがない。三鷹にあるスナック ガイ が社名の由来だという説もあり、「古事記」に出てくる少名毘古那神(スクナビコナノカミ)を信仰する一派の秘密結社が母胎とされているという説もあり、ガイナックスという名前に関する謎は深まる一方である。このあたりの文章はでたらめなので信用しないように。しかし、カッコの中がこうまで長いと皆さん、読みにくいでしょう。今年はなんと長野県の山中で開催されるのである。私の家からだと、4回も電車を乗り換え、7時間もかけないと現場に到着しないのである。

そんなところにおまえは何をしにいくんだ、と問われると、今まで書いた流れからいくと、「SFをする」ために行くのが妥当であるが、まあ、ぶっちゃけた話が「座談会」なるものをしにいくのである。メンバー

## RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

## 第14回:落語とSF大会

は、ネオノルや奇想天外の頃から活躍している芸歴20数年の大ベテランで、今般、めでたく角川ホラー小説大賞長編賞佳作なるものを受賞したが、星雲賞については、毎年、候補になっているが受賞に至らない、ホラー坊主の異名をとる怪人・牧野修、実は日本一邪悪な意思の持ち主ではないかと一部で囁かれている、これまた毎年、星雲賞候補になっているが受賞に至らない、禍津神・小林泰三、「悪魔の国からこっちに丁稚」で心ある翻訳家たちを嘆かせ、「やみなべの陰謀」で心あるジュニア読者を嘆かせ、「猿駅」で心ある猿たちを嘆かせ、だらだらしたしゃべりで相手を弛緩させて倒す、原人・田中哲弥……そして、私である(このあたりの紹介はでたらめなので信用しないように)。ようするに、いつも大阪や神戸あたりでしょっちゅう顔をあわせて酒を飲んだりしている「いつものメンバー」である。その、変

わり映えのしない、新鮮味のない、「またおまえらかい」的メンバーで長野まで行って、何をしようというのか。そんなしゃべくりを当日の参加者のうち、誰か聴きに来てくれるのだろうか。疑問である。

実は、このメンバーで、以前、某所で一度座談会をしたのだが、あまりに意味のない内容に、聴衆はおろか、やっている我々もあきれ果てたため、二度とこういう馬鹿なことはやらないという誓いをたてたのだが、その誓いはすぐに破れることになった。ガイナックスの統括本部長、武田氏のせいである。武田氏が勝手に企画を立て、しかも「前回のやつは司会者がいなかったためにまとまりが悪かった。今回はぼくが司会をしますから」と宣言されてしまった。この業界で、あの統括本部長武田氏に宣言されて言うことをきかない人間がいるだろうか。そのような無謀ともいえる勇気を持った人

物が過去に3人だけいたらしいが、彼らのその後の消息は不明である(このあたりの事実関係はでたらめなので信用しないように)。ガイナックスのHPの統括本部長の日記のトップページは、今は、赤ん坊を抱いてにやけるムーミンパパのような写真に差し替えられているが、以前の写真を覚えておられるかたはご存じだろう。堂々たる巨躯にサングラス、黒のスーツにパンダのネクタイ、変な帽子……という押し出しを見て、びびらない作家はいない。そのうえ、サングラスを外して、凶眼でぎろりとにらまれ、机を平手でどすんと叩かれて、「おんどれ、なめたこと言うとったら承知せんで！」と凄まじたら、地獄の悪魔でも直立不動になってうなずくであろう。

というわけで、我々は「SFマンガカルテット講演」なる、意味不明のタイトル(だってSFマンガなんか描いたことないんだもん)をつけられて、

7月3日の夜中に長野県の山中で、武田氏の仕切りで座談会をすることになった。予定では、「それではまず、折り込み川柳参りましょう。エスエフ大会のエ!」「江ノ島で」「エスエフ大会のス!」「酢の物食べて」「エスエフ大会のエ!」「海老食べて」「エスエフ大会のフ!」「フグ食べて」「エスエフ大会のタ!」「タコ食べて」「エスエフ大会のイ!」「イカ食べて」「エスエフ大会のカ!」「蟹食べて」「エスエフ大会のイ!」「胃イこわした」……というようなことをやるつもりである(嘘である)。このエッセイがガイナックスのHPに掲載される頃には、実際の講演は終わっていて、「ああ、えらいもん聴いてもうた」「むちゃくちゃやったなあ」「ほんまにめっちゃめっちゃでしたな」「あんなしょうもないことを人前でようやるなあ」「人間性を疑いますな」「人間性以前に、人間かどうか疑いますわ」「人間もどきかもしれん

## RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

## 第14回:落語とSF大会

な」「時間の無駄というか、大損した  
というか.....」「耳の汚れでしたな」  
「早く消毒せんと、耳から毒が脳にま  
わりまっせ」そらえらいこっちゃ。は  
よ、医務室、医務室」「どなたかお医  
者さんおられませんか」「SF大会や  
からドクター・マッコイがおるはず  
や」「こないだ死んだがな」というよ  
うな会話がそここで聴かれているは  
ずだが、今のところはまだ世の中は平  
穏である。

てなことを書くのが今回の目的では  
ない(といいながら、もうほとんど枚  
数は終わりに近づいているのだが)、  
過去、SF大会と落語は切っても切れ  
ない縁があるのである。そのことにつ  
いて書きたいと思う。

これまでSF大会(およびSF  
ショー)ではたびたびプロの噺家を招  
いてSFテイストのあるネタを演じて  
もらっている。たとえば、1975年  
のシンコンでは桂米朝師が「地獄八

景」を、1979年の第4回SF  
ショーでは桂枝雀師がショート落語と  
「胴斬り」をしているし、桂歌之助師  
や東京の快樂亭ブラック師も何度か登  
場しているはずだ。また、噺家だけで  
なく、横田順彌氏、堀晃氏、かんべむ  
さし氏、火浦功氏といった落語に造詣  
の深いSF作家が自ら落語をしたり、  
噺家に即興で新作落語を書いてその場  
で実演してもらったり.....といったイ  
ベントを行っている。私の記憶では、  
たしか、ダイコン5では、たしか堀晃、  
かんべむさし、小佐田貞夫の3氏が即  
興でたしか「死人茶屋」というネタを  
創作し、たしか桂歌之助師が即座に演  
じられたように思う(むちゃくちゃ曖  
昧な記憶なのでちがっているかもしれ  
ない)。

もうおわかりのように、SF大会と  
落語はきってもきれない縁があるので  
ある。ところが、ここ数年、アニメ歌  
手のライブなどは行われるのだが、な

ぜか落語関係のイベントがない。再来  
年の、21世紀最初のSF大会は、武  
田氏が仕切るらしいので、おそらく  
きっとまちがいに絶対確実にたぶ  
ん何となく落語関係のイベントをや  
ってくれるものと思われるが、とにかく  
ここんところ落語はごぶさたである。  
やはり不況の大王の影響であろうか。  
噺家と呼ぶのもけっこうお金がかかる  
のであろうか。

と、ここまで書いてきて、はっと気  
づいた。もしかしたら今年、武田氏が  
我々四人の企画を立てたのは、落語関  
係のイベントをしたいのはやまやまだ  
が落語家と呼ぶのはお金がかかるか  
ら、手近な作家で間に合わそ.....とい  
うような意図からではないか。あいつ  
らやったら、噺家よりは遙かにおもろ  
ないけど、四人あわせたら、少しは笑  
いをとりよるとちゃうか.....という  
ことではないのか。

ところが.....なかなかそううまくは

運ばないものなのである。たった今、  
長野から東京をまわって5日ぶりに帰  
宅したところだが、「SFマンガカル  
テット」の悲惨な講演結果は、聴いた  
人はご存じのとおりである。このHP  
のどこかにレポートがあがっていると  
思うが、「武田氏の巧みな司会と四  
人の見事な話術で会場には笑いがたえ  
ず、爆笑また爆笑のうちに、あっとい  
う間に2時間がすぎてしまった」など  
と書かれていたら、それは「真っ赤な  
嘘」(英語でいうとレッド・ライ)と  
いうやつである。しん.....と静まり  
返った会場は、針を落とした音すら聞  
こえるほどであった。来てくれた皆さ  
ん、もう二度とあんなことはやらない  
ので、お許しくださいませ。もうしわ  
けない。勘弁してくれ。ごめんなさい。  
謝る。すいません。わしらが悪かった  
.....。

(上記のSF大会で行われた落語関係  
のイベントについては、本当は、「S

TANAKA HIROFUMI  
P R E S E N T S

RAKUGO  
THE  
FUTURE

JAPANESE TRADITIONAL  
ENTERTAINMENT

# RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第 14 回:落語と SF 大会

F大会の歴史」みたいな大会企画の展示物を見て調べるつもりだったが、現場ではひたすらガイナックス提供の多量のビールと霜島ケイさん提供の少量の日本酒を飲んでへろへろに酔っぱらい、あとは寝ていたので、不完全なものであることをおことわりしておきます。この「SF大会と落語」については次回までにある程度きちんとしたことを調べておきたいと思っておりますので今回はお許しを)

